

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311  
FAX 66-1314



初代会長・さとが一週間の跣参りをした  
天王寺の清水寺（明治十年頃の全景）

をやの思いをにをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

## 表紙のことば

さて、話を明治三年に戻す。この年の暮、さとは大阪・久宝寺町の折井家に奉公を始めた。身許引受人は備佐の当主・上原佐吉であった。さとは明治四、五、六年と折井の家で奉公する。

明治四年の秋、折井家の長男が医者が匙を投げるような大病になった。折井の主人はさどが、日頃から神信心に熱心なのを見て、何とか息子の病気を救ってやってくれまいか、と懇望した。さとは主人の願いを聴いて、天王寺の清水寺に一週間の跣参りをして願掛けした。久宝寺町から清水寺まで、大体一里余り、大阪の今の地図で、松屋町筋をまっすぐ天王寺まで下ったものと思われる。初代は、この時二十一歳である。この時の模様を、少し長くなるが初代会長の聞き書きから記すと、

「・・・それで二十歳の春、一寸大阪まで行くと云ふて奉公を思いたったが、親がどうしても出してくれぬ。ところで私が余りやかましく云ふものだから、易者に頼んで占ふてもろふた易者が、この子は生まれた土地に縁がないというたのでやっとなす気になつてくれた。そこで、大阪見物に来る人について出たが、備佐へは前以つて親元を頼んで置いてあつた。久宝寺町の折井といへば、煙草入れの金具のようなものを扱ふ商売であつたが、なかなか大家であつた。そこへ奉公する事となつて、備佐と川合の前清とは得意先でよく遊びに来もし、行きもして知り合ひであつたので身許引受人となつてくれた。折井の待遇は、普通の女中(原文のママ)と違ふて「貴方は身元もよし給金も要るまひから、いつまでも居ってくれ、家から給金の代はりに相当な処へ片付けさせてもらふから」と言はれた。折井の家にも子供がなかつた。(川合の兄・清助にも子供がなく、私

の八歳の時子供と決めて、養子を探して居つたが、私の十五歳の時、子供ができた。大阪に出た理由の一つはそこにある。)奥さんが十年も添ふて居られるのに子供が無いといふので、夫婦とも子供を欲しがつて居られた。偶々妊娠になつて、無事に出産せられた。しかもそれが男の子といふので非常に喜びであつた。ところがそれも束の間、生後僅かに七ヶ月大変な引付がきて医者も匙を投げた。可哀想であるが、どうも命は受合はれぬという診察をした。両親はもとより親族知己の驚き一通りではない。夜も昼もつめかけて人の山をなして居る。私の生まれた伊賀の家は黒住教を信仰している。私もその信者であつたといふわけではないが、幼い時から父母の感化を受けて神仏への信仰が大好きであつた。私がチョイチョイ信仰して居るのを折井の旦那さんや奥さんが知るともなしに知つて居られた。「あんた気の毒なけれども、あんたは平生から信心をよくす

る。内には今この病人を抱へてどうしよう云ふてもどうもならん。あんた私の代わりにこの子の為に信心をしてくれんか」と頼まれた。私は同情した。何でも救けて上げねばならぬと決心した。しかし沢山な人の出入りがある。又沢山な人が居る家であるから昼に参る、夜に参るといふ訳にはいかん。そこで朝参る事にし、一週間跣参りの願をかかけた。大阪の清水といへば、天王寺の寺町を通り抜けて猶暫く行った処、久宝寺町からどうしても一時間位はかかる。その頃天王寺は寺町で淋しい。それから先には家はろくろくなかつた。田圃の中をうねうねと行ったものである。冬の事なら今言ふたら朝の四時、まだ闇が深ひ、その中を小田原提灯を吊して行く。橋の上など真っ白に霜が降っている。時には薄雪のあつた事もある。その中を一生懸命で走つた。

(この項次号へ続く。)

(史料部長 上原繁道)



大教会では、八月二十一日、大教会の月次祭の祭典後、布教部の主催で修養科修了者大会を開催しました。これは来年、立教百六十九年に教祖百二十年祭を迎える上から、修養科修了者の人々に、今一度この時句の意義を確認して頂き、大教会挙げて、一手一つに時句の活動の仕上げをしようとの思いで開催されました。

当日は祭典を三十分早めて九時献饌、九時半開式で月次祭が勤められ、その後十一時半から大会が開催されました。残暑厳しい中にもかかわらず、祭典は参拝場一杯の大勢の方々と共に勤められ、大教会長様の挨拶があって、本部修養科主任をおつとめ下さっている本部員・永尾隆徳先生のお話を、一時間に亘って拝聴しました。昼食は大教会で準備下さった弁当を頂き、ピロティでは、婦人会のバザーが行われる中、修養科同期の懐かしい顔ぶれに話もはずむ時間も有り、実に楽しい信仰豊かなひとときを過ごしました。

思えば、いよいよ教祖百二十年祭にあと五ヶ月という時に、お道の中堅ともいふべき修養科修了者の会が、大教会で持たれたという意義はまことに大きいものがあつたと感じます。改めて旬の息

吹をそれぞれに心に感じながら、着実な歩みを進めたいものです。

(会長室企画運営担当 上原 繁 道)

## 聞く気がないのは助からん。

錦備分教会長 室 悦子

修養科を修了する時に詰所主任の先生から「君は頼んだ事は一生懸命やってくれるんだが、頼んだ瞬間エッーと思ってしまうだろう。だから一生懸命徳を積んだつもりでもプラスマイナスゼロになつてしまふんだヨ。これからはそこを注意しなければいけないヨ。」あの頃はにが口を言われていやだなあ…と思つていたけれど、20数年たった今、ああ、あの言葉は神様が詰所の先生の口を通して注意して下さいだと思える。

修養科修了生の集いで、バザーの責任者の一人として御用を与えていただいた時、エッー責任者といわれてもなあ…月に1回しか大教会には帰つてこれないのに…私にはちょっと荷が重いなあと思つていました。

先輩に言う、「あんたのそのはじめから言うことを聞く気がないというのが一番あかんそれでは助からんで!! たとえば親が子供の喜ぶ顔みたくさにおいしいお菓子を買って来て、手を出してごらんと言つたとするわな、素直にサツと手を出した子はお菓子を食ふ事が出来るし親は買って来

てよかつた又買って来ようと思うけど、反対に親の事疑つてエッー何やら何か変な事されるとちやうやろかと思つて手を出さなかつたらいつまでたつてもお菓子を食ふ事はできんし親の方も言う事を聞かんかわいくないなあ、もう今度からは買ってこんどこ。それと一緒にで親にご用を言つてもらつたら白紙の心でパチツと合わせればなんぼでも運命が上がって行くんやから。」

へえ、そうなんか一瞬えーと思つるのは聞く気がないという事なんか。それやったら毎日の生活の中で一事が万事その心を使つてゐるなあ…自分では一生懸命やつてるつもりやつたけど気を付けなああかんなあ。

そして19日に講堂に集められたバザーの品々を見た瞬間、うわ、こんなにくさん今日一日で値段をつけられるかなあ…明日も来てやらなあかんのちやうかなと思つてしまつたのです。ハッこれやこの心があかん!! せっかく皆さんが寄せて下さつた真実なのに…勇んでさせてもらわなければ。

「高う買つて安く売りなはれや。」という教祖の言葉を思い浮かべながら皆さんに満足してもらへる値段は? なかなか難しかったけれど皆さんと一緒にワイワイ言いながら一日で終わらせることが出来ました。

バザー当日もちょっとでも売上げを伸ばさなければと思ひ、はじめはちょっとはずかしかった

けれど「安いですよー外でこんな値段では買えませんいなかですか。」大声を出して客引きをしたりしてアツという間に時間が過ぎ何とか無事につとめ終えることが出来ました。

11月にもバザーを開催する予定とのことなので、その時には最初から最後まで勇んで勤めさせていただく事ができる様日々の生活の中でその練習を積み重ねていかなければと思っっています。ありがとうございます。

## 修養科修了して

### 今改めて思うこと

稲瀬分教会 岩田典子

「わあ、お久しぶり！お元気？」

大勢の信者さんたちの中から同期の仲間を見つけると大きく手を振ってかけ寄り談笑する姿があちこちに見られ、この広い笠岡大教会もこの日ばかりは大勢の人たちの笑顔と歓声につつまれていた。

今日は笠岡大教会の『修養科修了者の集い』

私は修養科生のとき、朝礼で『おふでさき』を拝読していたときお世話になった永尾先生のお顔を見たとき、当時は教服に身をつつんでおられて、少し印象は違ってみえたが、あのなつかしい声を聞いたとたんに当時のことが私の胸を去来した。

先生の「修養科とは……」「修養科で学んだこと

は……」「これからの生き方」などわかりやすくご講演いただいたなかで、二代真柱様が「天理教とは何ぞやと聞かれたら、『天理教とは俺を見よ』とおっしゃった」という話を聞いて、「私はどんな姿や動きをしているのかな？」「私の姿がまわりの方たちにどんなに映っているのかな？」と心のなかで自問自答していた。

私は幸いにして両親から元気な体をいただいた。そのお陰で長いあいだ幼稚園という職場に勤務することができた。そのあいだには挫折しかかったことも度々あったが、傍らにはいつも手を差し伸べてくれる仲間がいた。特に幼稚園勤務最後の五年は耳の不自由な子どもたちとの日々を過ごした。彼らとのふれあいを通して、「この子どもたちは耳が不自由というハンデはあるが、人として真実を見つめる力を神様は与えて下さっている」ことを強く感じ、このことは私自身の生き方に少なからず影響を受けたように思う。

今、改めて私をとりまいた仲間や子どもたちから学ばせていただいた『素直な心』や『人につくす心』をもって、どんなに些細なことであっても、その人に喜んでいただけよう気持ちを寄せていく努力をしていきたいと思う。人は人との気持ちのあたたかさの通いあいのなかで「心のありよう」に変化が生まれてくるのでしょね。

月日が経つにつれて修養科時代のあの感激も遠い存在になりがちだが、このたびの修養科修了者

の集いは、私たち一人ひとりの心のなかに自らをふりかえるチャンスをもたらした。

最後に永尾先生からのメッセージを自分へのメッセージとし、新たな船出としたい。

今日集まったみなさまに私から新しいハッピーを差し上げます。それはあなたにしか見えない透明のハッピー。うしろには「修養科修了者」と書いてある。このハッピーは脱がないでくださいね。

## 修養科修了者の集いに参加して

久福分教会 永井喜久子

今日は教会の皆様と一緒に久しぶりに笠岡大教会へ参拝させて頂き改めて修養科の楽しかった3ヶ月修了後大教会でみんなと過した三日間の日々を懐かしく思ひ出しながら月次祭式典に参拝させて頂き心穏やかな時をありがとうございました。修養科を卒業して三年目の私は教会と家庭の調節を取りながらの日々の生活を過しています。

教祖の素直な心を学んで来た私も日々の暮らしの中で少しづつうすらいで来ていると思ひます。でも今日永尾先生の講話を聞かせて頂き素直な心のネジを巻く事が出来又二人の同期生にも会えて今日の一日ありがとうございます御座居ました。



## 修養科卒業後

多古浦(分) 大芦布教所長

余村 修

私は、昭和五十七年十二月から、五十八年二月の三ヶ月間を、修養科生として過ごした。この時の人数は、三十数人、丁度、教祖百年祭前の三年千日成人の時であった。今思うと、結構多かったと感じる。私自身、入学時まで16才であった。誕生月である十二月三十日で十七才を迎えるからだ。なぜその年に？と皆思うだろう。別に特別な意味があったわけではない。唯、高校を中退し、たちまち何もする事がなく、自分自身何をしたら良いか分からず、親に、「修養科に入れ」と言われて入学した。私の修養科生活で、自分が得た物は何か？と聞かれても何一つ答える事が出来ない。反対に悪かったと思う事と言われると、いくらでもあるが、今更、話す気はない。修養科を卒業すると、大教会実修生活を三ヶ月間、その後、教会長資格検定講習を受講し、修了と同時に、教人という立場を、お与え頂いた。まだ、十七、八の私がある。自分自身、心の中で、「本当に良いのか？」と考えたものである。何せ、自分が、全ったく、その気になっていないのである。それから後、私はいろいろと、お道の行事、ひのきしん等に参加した。一般世間で働いたり、アルバイト

トをする事なく。そんな折、親より、「上級教会の青年勤めをせんか」と言われ、一年という約束で青年に入らせてもらった。しかし、教会の青年勤めとは、掛け離れた生活態度のため？三年余りも、名ばかりの青年勤めをしていた。そういう年も4年目を迎える直前、自教会、全焼という大変な事情を目のあたりにした。我が教会が焼け落ちる様を目の前にして、何も出来ない自分が、歯痒く、思わず、消防団員の方にいらいらをぶつけた。後で思うと、その時の事は、すごく後悔した。その様な大節があった年、私は見合いをし、結婚をすませ、その年十月には結婚をしていた。平成元年の事である。それから今日まで、いろんな事を勉強させて頂いた。全ったく違う教会生活であった。あれから十数年、修養科を修了して二十余年、今回修養科修了者の集いに参加した。私の心に残った事は、本部修養科主任先生の御講話である。その中に、人は皆、生活に不自由がなくなり、贅沢になればなる程、心に甘えがなくなり、氣まま、勝手な、心使い、行いが出やすくなる。しかし、自分が苦しい時、どうしようもない時こそ、心の奥底に勇み心、自分がやらなければと言いう気持が沸きおこって来る。と言った事を聞いた時、「そうなんだ」と自分の心の中で叫んでいる私があった。私自身、結婚当初は何も分からず、今、しなければならぬ事、言われる事、その頃大変だと思いう事でも、心の中は勇んでいた様に思う。

でも、年々、年数を重ね、それが慣れると、心に余裕が生まれる。余裕の心の持ち方を間違えると、今の生活のありがたさに甘えてくる。そうすると、自分の気まま勝手な心が先に出てくる様になる。その内、家内にあたる、子供にあたる、自分が、と言う心が強くなる。人の言う事に腹を立てる。何もかも気にいらなくなり、心が病んでくる。まともな考え方が出来なくなる。最後には、自殺まで考えるようになる。私自身そう言う思いをしてきた。これは、誰のせいでもない。いろいろな方に迷惑をかけ、親々に、心配ばかりかけている。今でもそうだろう。今、自分に何が出来るだろう。主任先生の話しを聞いて、やはり、自分自身をおい込んでいかなければ、と思った。甘える事出来ない、どん底に我が身を置いていかないと、本当の喜びは、味わえない、人にも味わって頂けない。名ばかりの教人であります。皆さん、大いに私の事を笑って下さい。ただ、残された教祖百二十年祭までの日々を、全力疾走したい。家族、信者、近所、身上・事情で悩んでいる方々の為に、今しか出来ない事、今だから出来る事。今、生かして頂いている事、教祖にお使い頂く用木として年祭には、教祖にお喜び頂ける御供えをさせて頂くと思う今日である。同じ用木として、互いに助け合いながら、共に喜んで、勇んで、通らせて頂きたい。

# 第3回 英語講習会

今年も八月二十二日から二十四日までの二泊三日間、英語講習会を開催させていただきました。TLI(天理教語学院)から講師としてステイシー・老沼氏を迎え、短期間ながら中身の濃い充実した講習会だったように思います。

参加者数は、受講生十四名、係員八名でした。さて、今回も昨年同様、講師のステイシー先生に講話をしていただきました。彼女が日本に来るまでの心の葛藤や真剣に悩んだとこのことから、修養科を修了しTLIの講師として現在に至るまでのことを日本語と英語を交えてお話し下さいました。そして、伯父さんである都賀大教会長様と共に参拝され、親神様に御挨拶申し上げたとき、それまでの不安一杯な気持が嘘のようにさあーと晴れて心底安心することが出



来たど、受講生達に伝えて下さいました。私は講話を拝聴しながら、昨年来て下さったアンディ先生と同様に日本語も流暢で英語の教え方も旨く、人柄も誠実で、素敵な信仰信念を持った先生を派遣してくださったおちばの親心にお礼を申し上げ、受講生たちは本当にラッキーだなあとの感慨をもよおしました。受講生は少人数のグループに分かれ、教職経験者、塾の講師、あるいは海外生の経験者など英語が堪能なスタッフが其々のグループを担任します。

講習会の内容は、英語による簡単な自己紹介から始まり、レベルに応じて簡単な日常生活へと進みます。また、パソコンを用いてのゲーム感覚でのレッスンや、大画面での映画鑑賞(今年はMR.インクレディブル)、倉敷ライフパークへの社会見学、瀬戸大橋の下での昼食など短期間で楽しみながらの勉強が盛りだくさんの大変なことになる講習会です。私たちの努力不足によってこのような素晴らしい、親心一杯の講習会にもかかわらず最近参加者が少なく大変申し訳

なく感じている次第です。

今後は、もっと大勢の人を知っていただくと共に内容の一層の向上を目指して係員一同努力を重ねたいと思っています。

英語講習会期間中は、大教会長様、奥様、前奥様を初め、役員先生、御婦人方、青年さん、教会内の皆様方には、暑い中大変お世話になりました。ありがとうございました。

(海外伝道部員 香取雅人)

## 英語講習会で学んだこと

笠岡大教会 上原 理子

私が英語講習会に参加したのは今回で2回目です。去年、塾の先生に参加してみたい?と言われたことがきっかけで、初めてこの英語講習会に参加しました。初めの頃は、会った事のない人や慣れない英語での会話にとまどってしまい、なかなか人と話す事ができませんでした。でも、時間を過ごしていくとともに、英語での会話も人との話もだんだん慣れて、話せるようになりました。そしたら、授業もゲームもとても楽しくなって、グループの人とも、同じ部屋の人達とも仲良くなることができました。海外からの先生とも、スタッフのみなさんとも仲良くなれて、とってもうれしかったです。とても仲良くなれたので、英語講

習会が終わってみなさんと別れる時がとてみまじかったです。私は、この英語講習会で、人と話すことの大切さと難しさ、言葉のおもしろさ、人と親しくなることの大変さを学びました。去年の楽しかったこと、学んだことを生かしていくため、忘れないために、今年も英語講習会に参加しました。今年は、2回目ともあって、とまどいは少しうすれましたが、やっぱり今年も知らない人がたくさん来ていてまだ少しとまどいよりも緊張をしました。でも、また新しい友達ができたので、それはうれしかったです。今年も去年と同じような行事だけれど、外国からの先生も変わっていたりして、少しずつ違うところがあっておもしろかったです。今年はず中で抜けたり入ったりの人が多くてびっくりしたけれど、今年もとても楽しかったです。普段、あんまり体を動かしたり、頭を使ったりしていないので、ひのきしんでしっかり体を動かさせて、勉強やゲームなどで頭を使ったりできたので、とても良かったです。今回の英語講習会では、体を動かせることのように、頭を使うことの楽しさを学びました。私は、今年中学3年の受験生なので、もしかしたら来れないかとも思いました。でも、こうして英語講習会に行くことができ、本当にうれしかったです。来年もし、地元の高校に受かることができれば、来年もまた3回目の英語講習会に参加したいと思います。

## 人のために

明石市分教会 杉原洋輔

私は英語講習会に参加しないかと誘われたとき、正直迷いました。大学生ということでスタッフとして参加することでしたが、私は英語に自信がなく、不安でした。高校も英語は苦手で成績も悪かったし、全く話せないし、自分が行っても役に立たないのではないかと思ひ、断ろうと思っていました。しかし、これも何かの縁だし、参加させてもらおうと思ひ直し、参加することにしました。

前日から大教会に入り、英語講習会で使用する道具を揃えたり、部屋の準備をしたりと仕事をしているうちに不安も少しずつほぐれていきました。前日の準備で一番緊張したのはゲストのステイシーさんを迎えに行くことでした。ステイシーさんは日本語が話せると聞いていたのですが、私は先述したように英語に自信がなかったので、とても緊張していました。福山駅では並びを着て待つように言われたので、待っていると、ステイシーさんらしき人が近づいてきたので話しかけ、車内して、何とか終えることができました。

初日は十時ごろから参加者の受付をはじめました。参加者は中学生、高校生、大人合わせて十人

でした。参加者は二グループに分けました。私は中学一年生六人のグループを受け持つことになりました。一日目は自己紹介の練習を主にやりました。中学一年生ではまだ、英語を習いはじめでわからないことも多かったはずなのに、一生懸命やっていました。夜は映画を鑑賞し、初日の反省をしました。皆、慣れない生活に緊張していたみたいです。

二日目は主に英語を使ったゲームやパソコンを使っての発声練習などを行いました。生徒達はだんだん慣れてきて、ゲームも楽しんでいました。二日目の夜は生徒全員でレクリエーションをした後、ステイシーさんの講話を聞きました。ステイシーさんが日本に来たとき、どんな心境だったか、私が経験したことのないような体験の話をお話していただき本当に有意義なものでした。

三日目は倉敷のライフパークに行き全周映画を鑑賞し、その後、瀬戸大橋の下で弁当を食べました。皆、二日間ずっと大教会にいたので、外に出ることができ楽しそうでした。大教会に戻り、閉講式をして解散しました。

私は授業とかでも、スタッフというよりも、生徒と一緒に楽しむような感じで、役に立てたかどうか分かりませんが、少しでも人の役に立てたのだらしたら、また参加させてもらいたいと思います。

# 少年会 サマーキャンプ

私は大教会の少年会の委員になってまだ3年目の新米です。世間で言うならば下っ端。どこの世界でもそうですが、下っ端と言うのは大変辛い思いをしている事が多い。この私も相当なストレスと激務によって、2年前に比べると体重が5キロ増えた。

今回も団長からの「おい＼(私の名前です)キャンプの原稿書いておけ」との言葉に、文章を書くのがゴーヤチャンプルより嫌いな私は、その重圧から髪の毛が11本も抜け落ちてしまった。まあ書けと言われるなら書きますが、私はもっぱら裏方で子供達の動きは、ほとんど解っておりませんので、下っ端委員のキャンプ生活を書きたいと思いません。

22日9時過ぎワゴン車で大教会を出発。他に資材を満載したトラックと子供達の乗ったマイク口。ワゴンの同乗者は少年会の暴れん坊将軍ことFA分教会長のH氏と副団長。運転を任された私だが、このところの行事続きで疲れも出始めかなり眠い。それでも運転を代わってくれそうな人は無し、しかも少しでも目がつぶりそうになると、

助手席のH氏からチョップが飛んでくるのだ。泣きだしてしまえそう。シクシク。まあ何とか鳥取県の北条キャンプ場に着いた。ああ疲れたああ！しかし、休んではいられない。トラックから荷物を下ろし整理をしなければ。あいにく雨が降ってきてテント張りは無くなったが、休む間もなく夕食の準備に取りかかった。メニューはカレーとサラダ。ベテランの方達にあれこれと指図されながら微妙な味のカレーが出来上がった。カレーはと



もかくIK分教会長K氏が薪で炊いて下さったご飯は最高にうまかった。腹も一杯になったし今日は雨だから何も出来んし、と言うことでもう寝ますか。テントが張ってないから子供達はバンガローに私はワゴン車の中で寝ることに。

23日早朝地震かと思うくらい車の揺れで目が覚める。寝ぼけ眼で見るとH氏がニヤニヤしながら車を揺らしている。ドアを開けて「おはようございます。何やってるんですか？」と尋ねると、「歯ブラシ忘れた。コンビニまで運転してくれ」と将軍らしいお言葉。仕方なく車で出発。やっと見つけたコンビニでH氏は歯ブラシと私にとサンドイッチ・コーヒーを買ってくれた。いい人だ。キャンプ場に戻ると朝食と今日海水浴に行く子供達の昼の弁当作り。朝食はご飯にみそ汁。昼食はおにぎりに焼きそば。朝食をとり、皆さん出発。しかし雨の影響で波が高くプールに変更。子供達がプールで楽しんでる間に晩飯と明日の食材の買い出し。私たちの昼食は皆と合流できない為、くるくる回る例のやつになった。ここでも将軍様がお金を払ってくれた。いい人だ。買い出しをすませ一足先にキャンプ場に。暫しくつろぎの一時を過ごす。子供達が帰ってきて夕食の準備。今日はバーベキュー。楽勝です。おや？めずらしく団長御自ら飯ごうでご飯を炊いてらっしゃる。さすが団長やるときはやる。さぞかし美味しいご飯





を炊かれるのでしよう。と一同見守っております。さあ炊きあがり。いよいよ蓋を開けてみる。おお！ さすが団長。良い仕事してますねえ。うん、こりゃあ良い炭になる。焦げたご飯はさておき、炭火で焼いた美味しいお肉やイカを頂いて、お腹一杯。片付けの後は夜の行事、ウォークラリー。暗闇の中ランタンの灯りを頼りに広大なキャンプ場に隠された1番から7番までのミッションの書いた紙を見つけ、そのミッションを次々にクリ

アして行くというゲームである。子供達は皆楽しそうに、そして真剣に歩き回っている。I分教会K氏が必死で準備した甲斐があります。こうして夜も更け第2日目終了。

24日朝。私は寝坊してしまいました。業を煮やしたK氏が起こしに来た。最終日の今日は朝食パンと飲み物。昼食はおにぎり弁当。ロールパンに切り込みをいれ、バターを塗った後レタス・ハムを挟む。此を40個。私がパンに切り込みを入れると団長がバターをぬっていく。昨日の飯ごうの事があるから、不安でたまらない。そして弁当はポイルしたウインナーと昨晚バーベキューで余った豚肉をIK分教会長の愛娘がカツにしてくれた物をおにぎりと一緒に詰めて出来上がり。その間他の皆さんはテントや物品の撤収。朝食を済ませキャンプ場を後にする。帰りは海に寄って一泳ぎ。その間アイスの買い出し。またまた店が無く、やっと見つけたスーパーに着くとそこに見慣れたマイクロが。SE分教会長W氏が腹がへったと、マイクロに一人乗って助六寿司を買いに来ていた。みんなにアイスを配ってふと山の斜面を見上げると何やら楽しげな乗り物があるではないか。それは山の斜面を一人乗りの車輪付きのソリで駆け下りてくる物で、さっそくY副団長がその横にあるトロッコに乗ってあがってみた。山の上は公園になっており、子供達もそこで昼食、帰りは、あの

乗り物で下まで降りて帰ろうという事になった。私も当然乗れるものとワクワクしていたのだが、私がそれで降りたら車を下を持っていく者がいない。こんな時にも新米には「お前乗ってこい。車は私が乗って行ってやるから」という優しい言葉は全く無いのである。とにかく車を下に回し、上から次々に降りてくる子供達、また心ない大人達の楽しげな顔を見ながら、「はやく新しい人が少年会に入ってくれないかなあ」と一人つぶやく私でした。帰りの道中も色々ありましたが、無事に大教会に到着し、楽しい楽しいキャンプが終了したのでした。期間中一同無事無難にお連れ通り頂いた事を大変感謝しております。

※少年会はこの様に大変やりがいのある、楽しいところです。是非皆さん少年会の委員として活躍してみませんか？ 待ってます。

(少年会委員 新米デイク)

## この夏最後の思い出

高児島分教会 瀬良 章

天理の帰りの電車でキャンプの紙をもらった時、妹や弟が「行きたい。」と言い出して、ぼくは行かないつもりだったけど、親が「良い思い出になるから。」と言うので行ってみる事にしました。初めてだったので、どんなキャンプになるか、

どういう事をするか楽しみでした。

あいにくの雨で、一日目はテントも立てられなくて、キャンプファイヤーも出来なかったため、ハワイ温泉に行きました。いろんなおふろを全部回って、ウォータースライダーがあったので132回もすべりました。

ご飯は屋根のある所でみんな持ち寄った野菜を使って、大人の人ぬきで焼きそばやカレーを作りました。とてもおいしかったです。火の番がけっこううまくまりました。

夜はバンガローを借りてくれたので、そこでねぶくろを着てねました。

二日目は、雨は小ぶりだったけど風が強くて、海に行く予定がいけなくなったので残念でした。でもそのかわりまたハワイ温泉に行って200回もウォータースライダーをすべって楽しかったです。

その夜はナイトウォーキングできもだめしをしました。Tシャツをかぶってねぶくろをまいたおぼけが出て来て、全然こわくなかったけど、あまり夜に外を歩く事がなかったため、とてもおもしろかったです。

三日目には、やっと海へ行けてとてもうれしかったです。海の中でも足がつく所が遠くまであって、ゴーグルが流されてしまったけど、波に乗って遊ぶのがすごくおもしろかったです。

このキャンプでみんなとても仲良くなれま

した。この間だけは兄弟げんかもしませんでした。妹は友達をたくさん作れたかったようだけど、子どもの参加者は7人だけで、ちょっと残念がっていました。でも中学生や高校生の人が三人来てくれたので良かったです。こんなに楽しいのになんでみんなこないだろうと思いました。

今回は親に言われて参加したけど、今度そういう機会があったら、自分から行ってみようと思います。



## ・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆、②教会・布教所の独自の活動の紹介、  
③俳句・和歌・川柳、④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字)

題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。

俳句等は1句からでも結構です。

寄稿先

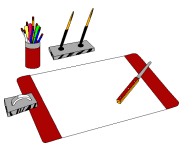
下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：[tenkasa@kcv.ne.jp](mailto:tenkasa@kcv.ne.jp)

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



# KASAOKA ぜったい友達 フェイスティバル 天理高校夏季伝道

去る8月27日、28日、29日と三日間に亘って天理高校の求道部・幼少年指導班の

夏季伝道が大教会と部内5教会、児童福祉施設で行われました。まず27日の昼前に学生24名

OB9名、顧問の先生4名、計37名が天高専用バスで到着しました。参拝、昼食の後、迎えに来た各教会と打ち合わせ、班編成された生徒たちは福山、高屋、興明、坪生、福満の5教会での

教会おとまり会に出発しました。各教会では日頃練習してきたゲーム、うた等や、その日だけの仮想王国を設定するなど、こどもたちに夢を与えるような企画を展開しました。(各教会の感想文参照)28日の午後には、おとまり会に参加したこどもたちと共に大教会に帰り、午後3時から講堂で「KASAOKAぜったい友達」フェスティバル・昼の部【友達たすけあい】が開始されました。予想よりはるかに多勢集まった約100名のこどもたちにグループ編成、名前覚えゲーム、グループ事に与えられたゲームと進み、最後は今回の伝道

テーマの「ぜったい友達」を上演。

劇中のキャラがみんなを夜の部(ファイアー)に招待するというフィナーレで幕は下り、

5時過ぎからはピロティールでお楽しみ夕食の時間です。メニューは婦人会のみなさんがつくってくれたおにぎり鉄板焼き。係員をふくめて120名分の肉、いか、えび、ウインナー、とうもろこし、野菜などを鉄板で焼きテーブルに配食するなど作業は汗だく、ホント大変、しかし大勢のひのきしんの手によって完成。こどもたちと生徒は各班事にあつあつの夕食を満足したようです。

おつとめ後の夕闇せまる中、夜の部【生きる喜び味わうファイアー】が広場で始まりました。百人余のこどもたちが輪になり、ドラマファイアーは、スタッフの軽妙な導入で薪に点火されスタート。歌に寸劇、ゲームなど炎に照らされたみんなの顔はよろこびいっぱいにはじけました。夜空を見上げると満天の星。感動的なファイアーでした。3日めは、福山にある児童福祉施設・こぶしヶ丘学園を訪問しました。テーマは、「絶対ともだち」。ここでもゲーム、うたなどで子ども達の気持ち柔らかくなった後、メインの道の子児童劇を上演しました。悪と正義の闘いを通してみんなが仲良くたすけあうことの素晴らしさを力強く、また見事に演じ、施設長さん、職員の方先生方も絶賛の拍手でした。その成功の裏には前夜遅く

まで講堂で劇のリハーサルを納得いくまで繰り返していた努力があったのはいうまでもありません。また、生徒の皆さんは子ども達を楽しませてくれただけではなく、私達大人にも縦の伝道の大切さを改めて訴えてくれたように思います。

今回、初めて天理高校の夏季伝道を受けさせて頂いて、わずか3日の間にもあの甲子園球児が一戦、一戦と試合を勝ち抜く毎に地力がついて強くなっていくような生徒達の素直でやわらかい感性をうらやましいと思いつつも、お世話どりさせて頂いたことをスタッフと共によろこび、晴れやかな気分でお送りさせて頂くことができました。急な行事にも拘わらず笑顔で受入ひのきしんに動いて下さいました大教会、婦人会、青年会、学生担当、少年会の皆様方に厚く御礼申し上げます。

## リーダーの中山君

福満分教会長 福島 大介

私が、天高求道部(男子二名・女子四名)を迎えたのは、八月も終わりに近づいた日だった。当教会としては、この夏は二度目の「おとまり会」だが、今回はその殆どを天高生に任せることにして、私は会場を提供し、少年会員を集めるのみで、『高校生がやればどんなおとまり会になるのか、お手

並み拝見。』と楽しみにしていた。

事前にリーダーの中山君から、FAXでプログラムが送られてきたのだが、なんとそこには、教会到着から退会まで、分刻みの予定がびっしりと書き込まれていた。我が教会では、三十年おとまり会を続けているが、その二日目はいつも海水浴が恒例。近くの海で泳いで、その後は浜でスイカ割りをする。もちろん、今回も子供たちへのチラシには、何の迷いもなく「水着持参」と注意書きを入れていた。「天理に居たら海も見れんし、二日目は海で泳げたら天高生も喜ぶじゃろう。」と、女房と話していた私だが、このFAXを見て、こちらが口出しできる隙もないくらい、一生懸命考えた予定を変更させるのも気の毒になり、「海中止」にした。

彼らの考えたおとまり会は、劇・パネルシアター・紙芝居・団扇作り・手話コーラス・室内ゲーム、もちろん、朝夕のおつとめ・ひのきしん・会長教話…と、内容は盛り沢山。唯一気に入らないのは、劇に私の参加を強制している点であった。丁重にお断りしたのだが、「会長さんのセリフは短めにしますので、ご検討を…」ときた。送られてきたシナリオを見て笑った。主役(?)である私“スペースキング”のセリフは全部で十一箇所。そのうち「うむ」と頷くところが、四箇所もある。確かに、覚えがよいとは言えないが…短すぎるゾ、

中山君！。

発表の当日、彼らが子供たちを楽しませようと考え、衣装を作り、練習をしてきたことを思うと、覚えの悪い“スペースキング”も奮闘した。その甲斐あって、子供たちに『おっちゃん』としか呼ばれない私でも、この日は『スペースキング』と呼んで親しんでくれる子もいた。

さて、今回天高生を迎えてのおとまり会で良かったことは、子供たちが楽しんでくれたことだ。参加者は二十七名で、最年長は十三歳で一番下は五歳…と年のひらきがあったので、教える側は難しいと心配したのだが、皆今回のゲームや歌や劇を楽しんでくれていた様子だった。

子供たちから『お兄ちゃん』『お姉ちゃん』と呼ばれる天高生。間違っても『おっちゃん』とは呼ばれない。この若さこそ、彼らの最大の武器だ。上手なプログラム進行がでなくてもいいのだ。若者が六人もきて、兄弟姉妹のように一緒に遊んでくれたというだけで、子供たちの心には感動が生まれ、たった一泊二日の短い出逢いでも、別際には涙を見せる子もいた。

ところで、リーダーの中山君が、当日、お多福風邪で欠席であったのが残念であった。一体どんな顔をした奴か見たかったのに。きっと、お多福のように愛嬌のある奴なんだろう。間違いない！

## 同じ目線で

福山分教会長 田中隆之

少年会の団長さんより、「天理高校の幼少年指導班の学生さんが笠岡に来て、おとまり会を実施するので受けてくれないか」との声をかけて頂いた。福山ブロックとしては、月に一度、鼓笛の練習を通して少年会活動を続けていますが、かねてより、鼓笛に繋がる少年会員と、それ以外の少年会員が、一緒になって出来る活動を、年に一度は実施したいと思っておりましたので、今回の団長さんの声は、そのきっかけとして非常に有難かったです。事前の天高生との打ち合わせの際、参加予想人数を聞かれた時に、五十名前後だろうと、大風呂敷を広げておりましたので、私どもの教会には、学生さん、OB・OGを含む九名で、一番多い人数のスタッフが来て下さいましたが、蓋を開けてみると三十名程の参加者で、事前の準備から考えると非常に申し訳ない限りでした。が、参加してくれた子供達は非常に喜んでくれ、受けさせてもらって良かったなあ、有難い機会を頂いたなあ、喜ばせてもらいました。

さて、おとまり会を振り返ってみますと、28日、大教会に集合している学生さんを迎えに行き、初めて顔合わせ。打ち合わせをする中に、全て学



生さんがしてくれると思つて、何の心構えもない中、「劇をするので、会長さんには国王をしてもらいませう」との言葉に、頭の中は真っ白、心臓はドキドキ。大教会から教会までの道中、どの道を通ったのか覚えてない程緊張の中、何とか教会に到着。徐々に集合してくる子供達をゲームで出迎え。どの子も緊張した面持ちで、恥ずかしそうにゲームを行っている。その後ろで真っ青な顔をした会長が、ブツブツ台詞を覚えている。とまあこんな感じで始まりました。最初は緊張していた子供達も、徐々に慣れてきて学生さんに引つ付いて遊ぶ姿があらこちらで見受けられました。学生さんの姿を見て感心させてもらったのは、どんな場面でも子供達の間に入って、決して上から見下ろすのではなく、同じ目線、いや、それより下から子供達に接しているという事でした。私たちは(特に子を持つ親は)つい、立ったままで子供と話をしてしまふ。結果、上からものを言ってしまう場面が多いのと反省させてもらいました。夕づとめ前におつとめ練習、夕づとめ後には教会前の広場で、綿菓子、ポップコーン、かき氷を始め、射的や空き缶ボーリング、魚釣りなどの手作りゲームで縁日の雰囲気を楽しみました。

29日は、パネルシアターを見たり、想い出カードをみんなで作ったり、その後、教会の隣にある小学校の体育館を借りて、室内オリンピック大会

を開催。各チーム優勝目指して、大いに盛り上げました。

昼食後にはいよいよお別れです。解散した後も学生さんにひっついていつまでも離れようとしないう子供が印象的でした。本当に喜んでくれたんだと実感する一時でした。

今回、天高生のお陰で「おとまり会」を開催する事が出来ましたが、事前の準備から何度も打ち合わせを重ね、ただ、「子供達に喜んでもらう」という気持ちだけで、本当に苦労して頑張ってきたんだと感謝の気持ちで一杯です。同じ事は私たちには出来ないと思いますが、今回の開催を「はじめの一步」として、少しでもおとまり会を通して子供達が教会につながってくれ、よふばくとして成人し、それぞれの教会に無くてはならない人となつてもらえるよう、少しでも子供達に喜んでもらえるおとまり会を続けていきたいなと思っております。

最後になりましたが、天理高校幼少年指導班の皆さん、本当にありがとうございました。

## おとまり会を終えて

坪生分教会長 掛谷宣和

私方の教会では毎年「教会おとまり会」をつとめさせて頂いておりますが、今年はひと味違った

「おとまり会」でした。

今年の「おとまり会」は、天理高校求道部幼少年指導班が笠岡大教会を会場に夏季活動をするとの事、更には、その中27日28日と5教会で教会おとまり会を実施との事、狭い教会ながら、ぜひ来て頂こうと手を挙げさせて頂きました。5月に決定し、6月本部月次祭後学生との打ち合わせ、私方の教会へ5、6名来て下さる。更にそれに向けて諸準備をしますとの事。他の4教会、広くもあり、内容も充実していますが、私方の教会、参拝場は12畳、部屋数も少なく狭い、更にはトイレ・バスは旧式で狭い。そんな教会で来て下さる学生に申し訳しの思いの中、話しを進めさせて頂きました。

7月に入ると学生から何度も電話・ファックスを下さる。「参加者の人数は？ 名前は何？ 年令は？」「こどもおぢばがえりを前にこちらはそれどころではない」と思いながらも

学生の熱心さには頭が下がる思いでした。

参加人数20名位お願いしますとの事。日が近づくにつれ、例年参加してくれる子供達、「今年はだめ。学校がある。夏休み最後の土日である。休みが終わりだ宿題がある。」との事。3日前までに決定していた子供が7名、高屋鼓笛隊の子供でもお願いしないと思つておりましたところ、私の弟が指導しているバレーの子供達が8名参加し

てくれ、ふたを開けると予定通りの少年会員20名の参加でした。

27日昼食後大教会で学生4名・OB、OG2名、計6名を預かり、狭い坪生の教会へ。車中では、これからの段取り等々、私の入る余地はなし。更に教会に着くなり、お茶もそこそこに、飾り付け、受付の準備と忙しく動いておりました。実際に子供達を迎えると、「フルーツフェスティバル」と銘打って、テーマに沿って、テーマソングをつくり、寸劇あり、シヨートコントあり、更には工作(まくらめ作り)あり、ゲームありとプログラムを実に手際よく進めている。何よりも感心したのは、始まって間がないのに6人がもれなく子供達の名前を覚えていた事。最初遠回しに見ていた子供達もいつしか輪に入り、実に楽しそうに遊んでいる。学生から子供達がずっと離れない、面倒見がよい。子供達が心を開くのには時間はかかりませんでした。実に素晴らしい。

夕食、夕づとめ、その後スーパー銭湯へ。休む間も無くプログラムをこなして行く。10時消灯。子供達が寝てからも、翌日の打ち合わせ。私も参加したのですがここでも出る幕がないので、早々に退散、就寝。学生達、綿密な打ち合わせは、2時頃まで続いたそうです。

28日は、6時起床、朝づとめ、朝のつどい、朝食、パネルシアター、ひのきしん、ゲームと次々



とプログラムは続く。最後に子供達一人ひとりに賞状を渡したのであるが、一人ひとりの子供を本当によく見ている。昼食時テーマとしていた「みんななかよくだすけあい」その証であるミックスジュースをみんなで飲んで閉会となりました。

閉会后、学生達を大教会へ送ったのですが、車中の人となった瞬間から次の行事の練習をしてみました。私方の子供達も大教会へ足を運んでくれ、大教会での行事を十分に楽しませて頂きました。

帰る時には、いつまでもいつまでも別れを惜しんでおりました。

近所の未信者家庭の中学1年生の男の子が、「尊敬できる人ができた。よかったよかった」と家に帰ってから親御さんにしきりに話したそうです。翌日学生が大教会を離れる際には、手紙を添えて見送りをしていました。後日その親御さんから「本当によかったようです。ありがとうございますました。」と深々と頭を下げてお礼を言って下さいました。

受け入れ等大変なところもありましたが、受けさせて頂いて良かったなと思えました。子供達が20名、学生・OB・OGが6名、教会側の高校生・大学生3名、食堂のひのきしん等近所の未信者の方も入って下さり、総勢40名。いたる所人、人の状態ではありましたが、おちばの理を頂いた有難い「教会おとまり会でした。」こういう機会を頂き本当にありがとうございます。

最後に学生達、クラブ活動とは言え、実に熱心につとめてくれていました。先生が次のような意味の事を言っておられました。「このクラブは、高校野球のように他と比べて評価はないが、子供達の笑顔、そしてこの夏季伝道が私達の甲子園だと」実に学生達、光輝いていたように思います。感動をありがとうございました。

## 「チュンチュンワールド」から…

高屋分教会長 武内正美

八月二十七日・二十八日と、天理高校求道部幼年指導班の高校生四名、OB一名を迎えて、「教会おとまり会」を開催させて頂きました。

はじめは、四十〜五十名の子供が参加してくれるだろうと思っていましたが、二十八日に学校行事と重なったところが多く、二十八名の子供が参加してくれました。

高屋分教会では、「チュンチュンワールド」という設定のもと、チュンチュンワールドの女王様が病気になる、それをたすけるために、みんなが協力しあって、いろいろなゲームや行事をこなしていくというストーリーで始まりました。

子供たちはゲームをする度にバネルが与えられ、最後にバネルをあわせると、「友だちたすけあい」という文字になりました。

ゲームを通して、子供たちに「たすけあうこと」の大切さ、物を大切にすること、挨拶をすることを教えていました。

最初は初めて見る高校生に、子供たちも戸惑っていました。すぐのうち解けて、「チュンチュン〜」と教会のあちらこちらで聞こえてきて、最後には、「来年も来てもらおうよ」とか、「天

理高校に行って幼少年に入る」という声まで出てきました。

子供たちの夏休み最後に、本当に大きな思い出が来ました。

高校生が、常に子供たちに心を配り、少しでも楽しませよう、喜ばせようという気持ちで、そばで見ている私たちにも、ひしひしと伝わってきました。

青少年の非行、不登校、いじめなど、いろいろな問題の多い世の中・・・本当にすばらしい高校生でした。

二十九日に訪問した、こぶしヶ丘学園の園長先生の挨拶の中で、「しあわせの道を求める活動をしている高校生」という言葉がありました。

幼少年指導の活動を通して、「どうしたらしあわせになれるか」ということを子供たちに伝えていくなあと感じました。

私も学ぶことの多かった「教会おとまり会」でした。

ありがとうございました。

(チュンチュンワールドの女王より)

## ぜったい「おとまり会」のすゝめ

興明分教会長 吉岡誠一郎

5月だったでしょう。少年会の中島団長から

天理高校の幼少年指導班が笠岡に来るので「おとまり会」を教会でしてみないかとの打診がありました。参加者は少ないのですが昨年から年に数回「おとまり会」をしており、今後の参考にもなると思い、興明でよければと返事をし開催が決定しました。

8月27日。お昼に天高生(OB含む6人)を迎えに大教会へ。前日までの修養科教養掛からの切り替





えがまだ出来ていない状態で1泊2日の「おとまり会」が始まりました。

今回の「おとまり会」では、みんなで協力して宝物を見つけるという設定でプログラムが組まれています。合言葉は「みんな仲よく助けあいーン」。こどもおちばがえりの三つの約束(生きる喜びを味わいます。ものを大切にします。仲よくたすけあいます。)がキーワードになっていて宝物は「友達」だったんだというところで終わります。

さて今回は3歳から15歳までの17人が参加しました。受付を済ませ3つの班に。皆こどもおちばがえりの経験者ということもあってお互いに面識もあり、暑い中、お兄さん・お姉さんが真剣に指導してくれる歌(手話)やゲームにもすぐに溶け込んでいきました。その他、おつとめ練習・教会周辺のゴミ拾いひのきしん・花火など、盛り沢山の内容に子ども達はノリノリでそのテンションの高さには驚きました。あらゆる場面で参加者の世話取りを事細かくしてくれた天高生には、感謝感謝です。引き続き大教会で行われた「KASAKA ぜったい友達フェスティバル」へも17人のうち12人が参加し、新しいメンバーでご馳走をいただき、フアイヤー等、滅多に体験できないことに時間を忘れて楽しい時を過ごさせていただきました。

全ての行事が終わり、夜9時過ぎに大教会を出発するとき、興明に来てくれた天高生6人みんな

が子ども達の乗るマイクロバスを見送ってくれたことにも感動しました。

後日、参加者から「今度のおとまり会にも天理高校のお兄さんやお姉さんが来てくれるん？」と尋ねられたとき、今回の「おとまり会」は成功だったと確信しました。もっと大勢の参加者がいればと、来てくださった6人には申し訳ない気持ちです。

敢えて苦言を呈すならば、事前に何回か打合わせをし共通認識を持つほうがもっとスムーズに事が運ぶと思いました。

## 全分会 布教推進週間

この度青年会笠岡分会では、8/28より9/4までの間を布教推進週間として、各教会、各ブロックごとで活動をさせて頂きました。この間には、他の行事等も重なっていましたが、皆様方には御協力頂き誠にありがとうございました。

毎年恒例の行事の一つでありますキャラバン隊

ではありますが、先輩方の積み上げてきたものを崩さないように何とか自分達も活動を続けて、その上にさらに積み上げられたらと年々続いてはいますが、実動数も減り、細々とではあります。

祭に向けて、一名一人があらきとうりょうの使命を担って、戸別訪問、パンフレット配り、神名流し、十二下りと、清々しい汗を流させて頂きました。

その中では、個別訪問時に「もうパンフレットを私の家に配るのはやめろ」と一喝された事もありましたが、残念に思うよりも「あーそうだ、イヤだと言われてもポストにあるパンフレットを一目でも見て頂いて気にかけて下さっているのだ」と心を入れかえ、喜んで通らせて頂きました。

教祖年祭という一里塚は、もうすぐそこまで来ていますが、まだ教祖120年祭までには、四ヶ月あります。そして、120年祭は一年を通してあります。その時に改めて自分を見つめ直したとき、その手には少しでも多くの喜びを持っていたいものです。その為にも、目標に向けて定めた心を受け取ってもらえるよう、成人の道を歩みたいと思います。

(青年会委員長 浅野明教)



# 談話室



## 歩きながら考えたこと

芦品分教会長 吉岡 孝彦

皆さんは、夜、光るたすきをかけて歩く人達を

見たことがありますか。中高年に最も人気のある「ウォーキング」に励んでいる人達です。朝や昼間行方人もいますが、やはり夜の方が、光るたすきのせいか目立ちます。かく言う私も、もう何年も前から歩いていますが、用事のついでに歩くので、たすきはしていません。ですから、私の「ウォーキング」ではなくて、あくまで「歩き」です。歩く様になると、今迄意識することもなかった「歩く」という動作に、興味を持つ様になりました。ある時、近所の書店で、甲野善紀氏著「なんば歩き」という本を見つけました。

私達は右足を出す時は左手を、左足を出す時は右手を振り、手足を交互にして歩いていきます。しかし、明治以前の日本人は、こういう歩き方ではなくて、手を振らないか、振るとしたら、右手と右足を、左手と左足を同時に出す「なんば歩き」という歩き方で歩いてきたそうです。「なんば歩き」は当時の人達の生活や仕事から生まれた、体に負担の少ない省エネ歩行法で、その為、旅人は、一日40キロは歩くことが出来たそうです。これはいい、楽に長く歩ける方法があるならと、普段歩く時に何度もやってみますが、なかなかうまく出来ません。腕を振らずに歩くことはなんとか出来ますが、右手右足、左手左足を同時に出しては、不自然で歩けません。楽どころか、かえって疲れます。

ある日の朝づとめでふと思った。おてふりの動作は基本的に、右足を踏み、前に出す時に、右手を右方に出し、なげ、振る。これは「なんば歩き」の動作に似てないだろうか。教祖は、当時の大和の人達に、身近な例えを用いてお話し下されたとお聞かせ頂く。あくまで私の勝手な想像だが、おてふりも、当時の人達には、当たり前で自然な体の動きでお教え下さったのではないか。

私は、普段歩く時、何度も「なんば歩き」に挑戦したが、どうしても不自然でうまくゆかなかった。しかし、おてふりは現代人である私にも全く自然に出来る。不思議である。何を訳の分からぬ事を言っているんだ、そんなことを考えるよりは、おてふりをもっと真剣にやれ、と皆さんに叱られそうだが、でも私には、おてふりの動作は、なんと不思議でうまく出来ているのだろう、と思われ

てなりません。

## 「じどもがえり」で感じたこと

興明分教会長 吉岡 誠一郎

今年で52回目を迎える真夏の祭典「じどもがえり」が7月26日から8月4日まで開催され、笠岡につながる少年会員・育成会員合わせて1624人がおぢばへ帰り、詰所に宿泊しました。丁度この間、教養掛の助員として初めてつとめさせていただき、詰所におりましたので、見て感じたことを述べさせていただきます。

「じどもがえり」は少年会がやっている行事という認識から、大教会が丸となって取り組まねばならない大切な「縦の伝道」との意識を徹底する上から、各会・各ブロックから委員が選任され、総務、育成掛、ひのきしん掛、行事掛といった実行委員会が組織されました。このたび各掛が取り組んだ仕事内容を具体的に記すと、

○総務：帰ってきた団体に感謝状と記念品を渡す

○育成掛：期間中の少年会員の指導・育成。起床の案内。朝のおつとめ・ラジオ体操の進行。今日一日の目標(めど)の発表。中学生(わかぎ)と一緒に夕食後の食器洗いひのきしん。

○ひのきしん掛：屋外の看板 模擬店の看板 詰所内の案内板の作成。

○行事掛：模擬店の準備・運営。ビデオ上映。詰所内クイズの作成・設置。

しかし上記の掛の他に、詰所受け入れのひのきしんの大変さを、今回目の当たりにしました。

「こどもおちばがえり」の期間は修養科生は学校もなく、専らひのきしんに励むときとあって半数以上の修養科生が本部の長期ひのきしんに出かけます。詰所へ残った人達は、事務所の皆さんと一緒に風呂掃除・各部屋の掃除、またゴミ集め・トイレ掃除など平生より何倍も多いひのきしんが待

ち受けているわけです。それも早朝から夜遅くまでです。勿論、食事の準備・片付けは言うまでもありません。その量の多さにうち驚き、また暑さが拍車をかけて余裕がなくなり、修養科生間に不協和音が聞こえてきたときもあったように思います。しかし、さぼろうとする人は誰一人としてなく、真面目につとめてくれました。模擬店を例にとりましてもスタッフが集合する午後5時にはほとんどの準備は出来ているわけです。それはN先生を中心に詰めているS氏・N氏また子供の世話をしながら奮闘しているU氏の力によるところが大だと思えます。駐車場の誘導係

はT氏が毎日暑い中をして下さったので大助かりでした。こうした裏方の人達のお蔭で、こどもたちは楽しくおちばがえりを過ごしていることは間違いないと思います。参加した子供たちにも、ただ自分たちが喜び楽しむのではなく、帰ってきた人達に喜びと感動を与えられるようになってもらえたらと思います。ここ何年か詰所内のゴミ集めのひのきしんをしてきている団体もあります。



▼養徳社発行『陽気』誌九月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「引」、選五十三句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事選ばれ掲載されていましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 川島郷分教会前会長 香取 敏子

引きこもる友にひとことにおいがけ

佳詠 東悠分教会長夫人 田林 美智子

引き寄せて守護鮮やかに理の世界



東濱 十三雄

共に生き三十七年愚痴などを

こぼさぬ妻にチョット救われ

人生に折返し点など 無い様だ

只 前を向き 勇喜忘れず

乱文に長の目通し頂いて

感謝し乍ら 筆を置きます



## 八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の一系列子供かわいい一条の親心あふれる御守護により日々は結構に恙なく生活くわさせて頂いております 中でも今は連日三十度を越える猛暑の中にも朝晩の涼さと虫の音によってわずかではあります秋の気配を感じる事が出来る等誠に有難く勿体ない極みでございます 私共は常に喜びと感謝の心一杯で朝夕におつとめを通してお礼申し上げつつ御恩に報いるべく未だ真実の親心に触れず身上事情に苦しむ人々に親心を伝え共に御恩報じの道を歩んで貰うべくにをいかけおたすけにとたすけ一条の御用を勤めさせて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の名称の理にお許し下された八月の御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同喜び感謝の心も一入に明るく陽気に勇んで座りつとめてをどりをつとめさせて頂きます 御前には折柄の暑さ厳しき中も厭いませず又遠近を問わず寄り集いました道の子供達が同じ思いに伏し拝み相共にお歌を唱和する真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて世上は政治不安や経済不安又非人道的な犯罪の増加や地震・水害に怯える等増々混沌の度合いを深めております そんな中だからこそ親心に凭れ御恩報じの道を歩ませて頂く事が大切と思わさせて頂きますので本日は修養科修了者の集いを開催させて頂いておちばで直にお育て頂いた者が集まりお互いの親交を深めると共に修養科時代を思い起こしよふぼくとしての自覚を高めて教祖年祭の仕上げにふさわしい成人を求めて一手一つに御恩報じに勤めさせて頂く所存でございます 又来月はおおぼよりにをいかけ強調の月とお声を掛けて頂いておりますのでにをいかけ百万軒を達成すべく又一人でも多くの初席者をご守護頂けるよう力の限り実動に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には親孝心一筋に旬に寄せる皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして万たすけの上にも尚も自由の御守護を賜り人々の心が不安から解放され喜びと感謝の心に立て替わり仲良く助け合う陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

### ◆第81回 天理教青年会総会

全青年会員が教祖のお待ち下さる親里ぢばに帰り集い、  
青年会長様のお言葉に心の向きを揃え、  
更なる実動を誓い合う場。

今まさに旬 集え若人よ 万波をこえて布石となろう!!

【式典】 日時 立教168年10月27日(木) 午前10時  
場所 本部中庭

### ◆委員部長後継者講習会

【期間】 11月22日(火) 午後2時半開講  
11月23日(祝) 昼食後解散  
【場所】 大教会

### ◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください



### 実践項目集計 (7月)

百万軒にをいげ	58,354軒
おさづけのお取次	4,186回
身上事情お願い	832件

## 大教会だより

II 教会指令 II  
◎任命願

福節 分教会

\*前任 藤井サトコ  
\*新任 藤井治喜

立教168年8月26日承認



### ◎第七七〇期修養科

自 立教168年6月1日  
至 立教168年8月27日

#### \*教養掛

三ヶ月間 門脇元教

(島根分教会長)

一ヶ月目 余村健

(多古浦分教会長)

二ヶ月目 下田孝徳

(行藤分教会長)

三ヶ月目 吉岡誠一郎

(興明分教会長)

#### \*修了者

直轄 上原大安

直轄 内海史郎

久松 横山忠男

海松ヶ岡 山本幹郎

皆部 河原誠

明石市 杉原栄司

米府 大羽晴実

弓ヶ濱 森川弘志

亀田山 山下満

簸ノ川 野津剛

神免 亀井宏明

久松 中村京子

### ◎教会長資格検定講習会修了者

前期 立教168年9月14日終講

芦加茂 小川幸平

海松ヶ岡 渡邊理恵

芦品 原美紀



皆さぁくん！こどもおぢばがえり楽しかったですか！パレード最高でしたか！ホップ・ステップ・マーチング見ましたか？あゝイヤイヤ！親ばか大臣の私くしめ、実は、私の愛娘が本年四月より教校学園・マーチングバンド部に入り頑張っています。中学の時から吹奏楽部に所属し毎日フルートを吹いていた娘、高校へ進学、どうしても音楽が

好きと、マーチング部に入部、夏のこどもおぢばがえりに向け猛練習。父はドキドキ、ハラハラ、いつものこどもおぢばがえりとは一味違う？ヤレヤレ！バカ。パレードも、ホップ・ステップ・マーチングも感激で、よくやった〜と、四月に入学、わずか三ヶ月で複雑なドリルをマスターし、出来るものだなあ！と感心しきりでした。何ともはや親バカ！と上級の会長様夫妻にあきられながら！……

さて、残暑厳しき今日この頃ですが、それでも秋の気配を感じはじめ、それと同時に、教祖百二十年祭が目の前だと、あせりの様なものを感じてしまう私くしめでありますが、皆々様いかがお過ごしでしょうか？イヤイヤ！愛娘が高一でわずか三ヶ月であれだけの事が出来るのだから父さんも余すところ三ヶ月、仕切って、そして思い切ってダイブするぞ！と言ひ聞かしている今日この頃ですが、皆々様ご一緒どうぞ！（と）



涼風